

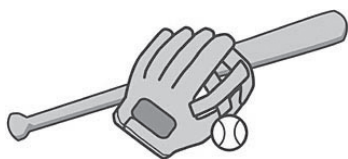
楽しい体育授業を創造する

# ベースボール型の授業実践

---

北 徹朗

青山ライフ出版



## はじめに

著者は2002年度より大学でソフトボール授業を担当するようになって以来、現在までにベースボール型授業（野球、ソフトボール、ティーボール）を通じて2000人以上の学生と向き合ってきた。その過程において、著者自身の授業の質向上を目指し、受講者の実態、授業の安全対策、効果的な指導方法、初心者のためのボールドリルの考案と評価、男女共修授業時の特別ルールを試行と評価、教育効果を高めるための教材開発など、様々な点からベースボール型の授業づくりを考究してきた。本書では、こうした積み重ねで得られた知見を紹介させていただき、ベースボール型授業を担当されている先生方の授業に役立てて頂ければ幸いである。ベースボール型授業は、小学校・中学校・高等学校・大学の体育授業において広く行われている。本書は、大学体育授業での経験がベースになっているが、大学教員以外の先生方にも役立つ内容であると考えている。ベースボール型授業を担当されている先生やこれから教師を目指す方の参考にして頂ければ幸いである。

2011年3月

北 徹朗

# CONTENTS

はじめに .....	3
<b>1. 導入段階に役立つ指導法.....</b>	<b>8</b>
<hr/> <hr/>	
1-1: ボールドリル .....	8
《ボールドリルの種類と到達目標》 .....	8
《ボールドリル実施後の受講者の評価》 .....	11
《ボールドリルと男女の差》 .....	12
《ボールドリルの楽しさとベースボール型スポーツの経験》 ...	12
《ボールドリルの効果をより高めるために》 .....	12
1-2: アウトゾーンを設定した簡易ゲーム.....	12
《アウトゾーンとは何か》 .....	12
《アウトゾーン設定試合における得点方法》 .....	13
《アウトゾーンの設定方法》 .....	13
《アウトゾーンの指定方法例》 .....	14
<b>2. 対象に応じた授業展開方法 .....</b>	<b>16</b>
<hr/> <hr/>	
2-1: 男女共修授業時の実践例 .....	16
《試合時の女子に対する特別ルール》 .....	16
2-2: 少人数授業時の実践例 .....	17
《三角ベースや攻守の人数調整により ゲーム性を確保する方法》 .....	17
《3チーム構成での試合実践法》 .....	18
《本塁と1塁ベースのみを使用した試合実践法》 .....	19
2-3: ビブスを使用した試合のすすめ.....	20
<b>3. ベースボール型授業の安全対策 .....</b>	<b>21</b>
<hr/> <hr/>	

3-1: 受講者が予測しにくい危険な場面 .....	21
3-2: 「バット放り投げ」の特徴と安全対策 .....	23
《『バット放り投げの3パターン』と『放り投げる方向』》 .....	23
《放り投げる受講者の共通点》 .....	24
《放り投げやすいシチュエーション》 .....	25
《放り投げる癖のある受講者を事前にチェックする方法》 .....	25
《該当者に対する指導策》 .....	26

#### **4. 教育効果を高める教材開発 .....** 27

---

4-1: 必要とされている視聴覚教材 .....	27
《雨天時にはどんな授業が行われているか》 .....	27
《教員が必要と考える視聴覚教材はどんな内容か》 .....	28
4-2: ホームワークを取り入れたベースボール型の授業 ..	28
《ホームワークの手順》 .....	28
《チェックノート及びDVDの内容》 .....	29
《ホームワーク提出後の受講者の自己評価と効果測定結果》 ..	30
《投球の正確性テストの結果》 .....	30

#### **まとめにかえて .....** 32

---

#### **引用文献・参考文献 .....** 34

---

装幀・イラスト 溝上なおこ

楽しい体育授業を創造する  
ベースボール型の授業実践

# 1. 導入段階に役立つ指導法

## 1-1: ボールドリル

### 《ボールドリルの種類と到達目標》

著者の調査によれば、大学ソフトボール授業において受講者が難しいと感じる場面は、攻守を問わず「動いているボールに対する技術」であった。ここでは、動くボールに目を慣らすことと、捕球の基本を体得させることを主なねらいとしたボールドリルを紹介する。

著者の授業では2人組（以下、A及びBと示す）でグローブを使用せずに実施している。

表1. ボールドリルの種類と到達目標

ドリル	到達目標
A	動いているボールを正確に捕球するための膝とグラブの使い方を体得する
B	フライを正確に捕球する技能を体得する
C	腕を伸ばしてグラブが届く最大限の範囲を実感する
D	打球や送球に応じた身のこなしやグラブの使い方を体得する

(北 徹朗 (2007) 「大学ソフトボール授業におけるボールドリルの実践」 『大学体育 No.90』 p.77)

【Aドリル】：AとBの距離は4-5メートル。AはBに対して背中を向けて立つ。Bは「ボール！」の掛け声とともにボールをAにトスする。Aは掛け声が聞こえたら素早く方向転換し飛球してくるボールをグラブをはめる方の手（片手）でキャッチする。膝を使い正確なグラブの向きで捕球できるようになることが目的である。(図1)